



19 爽竹桃

山本森之助

大正三年（一九一四）

油彩、キャンバス

五九・四×四四・二

夏の日射しを受けて、小さなさざ波が輝きながら流れてゆく。穏やかな瀬戸内海を臨む小高い場所、鮮やかな花を今を盛りと咲かせる爽竹桃を主題として描いている。

風景画家として名を馳せた山本森之助（一八七七～一九二八）は、大正三年（一九一四）に精力的に各地をめぐっており、八月から九月にかけて備後鞆の浦に滞在した。画面の上部には小船や家並、うっすらと沼隈半島と思しき陸地を見て取ることができる。海や樹木は、印象派の影響を感じさせる点描風のタッチで筆を重ねているが、それぞれのモチーフが画面内に埋没しないのは、山本の確かなデッサン力がなせる技だろう。

鞆の浦は古来景勝地であり、域内に点在する島々のなかでも仙酔島や弁天島には明治天皇をはじめ、皇族方がしばしば訪れている。本作は第三回光風会展に《川の石》《瀧》とともに出品され、宮内省に買い上げられたもの。皇室にゆかりの深い風光明媚な鞆の浦が題材となっていることも買上の理由だったかもしれない。

一面

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan